

平成 27 年度事業計画書

(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)

I. 学術講演事業 (定款第 4 条 1 号に該当)

(1) 第 111 回日本精神神経学会学術総会

第 111 回日本精神神経学会学術総会を実施する。以下、本学術総会の概要である。

- 会 期：平成 27 年 6 月 4 日から 6 日
- 会 場：大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル
- 会 長：岸本 年史 (奈良県立医科大学精神医学講座 教授)
- 副会長：平井 基陽 (奈良県精神科病院協会 会長)
- テーマ：翔たくわれわれの精神医学と医療－世界に向けて出来ること－
Your Partnership for Psychiatry and Neuroscience in the World
- プログラム概要
 - A. 特別講演 (一例)
 - ・ iPS 細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み
 - ・ 共感とトラウマの神経回路メカニズム
 - ・ 心を創る脳機能：複雑系脳科学とその臨床応用
 - ・ Treating social anxiety disorder
 - ・ Understanding the disease process of Integration Disorder: Insights into novel therapeutics
 - ・ Psychiatry under National Socialism: Rememberance and Responsibility
 - ・ Directions in Medical Education
 - B. 会長講演
 - C. シンポジウム (一例)
 - ・ 高度急性期精神科医療の将来像
 - ・ 精神科専門医に求められる資質について
 - ・ 統合失調症のトランスレーショナルリサーチ
 - ・ DSM-5 のインパクト -臨床・研究への活用と課題-
 - ・ リカバリーの脳科学と支援ガイドライン
 - ・ 死にゆく患者/遺族に対する精神療法的接近
 - ・ 措置通報・措置入院事例の地域移行－求められる保健・福祉・医療の役割－
 - ・ メンタルヘルスのためのうつ病と睡眠障害-診断と対応のあり方
 - ・ 急性精神病を再考する 急性精神病は減ったのか？
 - ・ 神経症性障害と抑うつ：その相互作用と臨床的意義、治療について
 - D. International Symposium (一例)
 - ・ Case Vignette (Forensic)
 - ・ Psychiatric emergency services
 - E. 教育講演 (一例)
 - ・ 劇的な精神療法入門
 - ・ エピジェネティクスと医学
 - ・ 精神医学とメディアリテラシー
 - ・ 薬物療法の基本－患者に利益する養生法－

- ・ Personal Support Specialist
 - ・ 犯罪被害者支援の今ー精神科医の視点からー
 - ・ 被虐待者の脳科学研究
 - ・ うつ病の“オーダーメイド治療”は、どこまでできているのか？
- F. 先達に聞く（一例）
- ・ 私が歩んだ《表現療法》の道
 - ・ 進化する DSM-5 と日本語訳
 - ・ 治療のための精神病理学
 - ・ 摂食障害ととりくんで
- G. ワークショップ（一例）
- ・ 精神科医に求められる基本的な心理社会的治療
 - ・ 精神科病棟をいかに治療的に運営するか
 - ・ 精神科医に必要な基本的な面接
 - ・ 精神科医にとって必要な臨床神経学ーその理論と手技ー
 - ・ 就労支援・促進のための方法論
 - ・ 臨床家が知っておきたい子どもの心の発達
 - ・ パーソナリティ障害の実践的な診断・治療の進め方
 - ・ 精神科診療に役立つ家族療法の視点
 - ・ 児童思春期のうつ病の診断と治療
- H. 一般演題（口頭・ポスター） 350 題以上を予定
- I. 市民公開講座（平成 27 年 6 月 6 日 大阪国際会議場にて開催）
- J. 大会最終日に一般演題の中から特に優れた演題発表者（若干名）の表彰を予定

(2) WPA Regional Congress OSAKA Japan 2015

WPA Regional Congress OSAKA Japan 2015 を第 111 回日本精神神経学会学術総会と同時開催する。以下、WPA Regional Congress OSAKA Japan 2015 の概要である。

- 会 期：平成 27 年 6 月 4 日から 6 日
- 会 場：大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル
- Congress President : Dinesh Bhugra (WPA President)
- Congress Director : 武田 雅俊 (日本精神神経学会 理事長)
- プログラム概要
 - A. Keynote Lecture
 - ・ Psychiatry in Asia
 - ・ How to Cope with Rapidly Increasing Elderly Population in Asian Countries
 - ・ Constructing a Level Playing Field for Access to Mental Health Care for Everyone in the World in a 21st Century Setting
 - B. Special Lecture
 - ・ Responding to the Mental Health Needs of Women and Men Affected by Child Maltreatment and Intimate Partner Violence
 - ・ Innovations in Women Centred Mental Health Care in the Community
 - ・ The Concept of Schizophrenia and Recovery

C. Symposium(一例)

- Cognitive Rehabilitation and Supported Employment for Persons with Schizophrenia
- Mood disorders in children and adolescents
- Disasters and Addictive Behaviors: Experience of the Great East Japan Earthquake
- Young Researchers Symposium on Obsessive-Compulsive Disorder: Biological Topics

D. Fellowship Award Symposium(一例)

- Focusing on the link between non-psychiatric hospitals/clinics and psychiatric emergency Service
- Focusing on difficult cases encountered in psychiatric emergency services
- Forensic psychiatry I: From the view of the psychiatry
- Forensic psychiatry II: From the view of the law

E. Leaders Round Table

- Report from European societies: for future collaboration
- Report from Asian-Pacific societies: for future collaboration

II. 機関誌刊行物事業 (定款第4条2号に該当)

■ 精神神経学雑誌(和文誌)の発行

第117巻 第4号-第12号および、第118巻 第1号-第3号の12号分(1号あたり10-15論文を掲載)を刊行予定。冊子体発行部数は、各号約7000部である。

また2014年4月よりオンラインジャーナルの運用を開始し、紙媒体の発行と同時期に、全会員が電子版を閲覧することが可能となった。

また、102巻(2000年)以降のバックナンバーのオンラインジャーナル掲載を予定している。

■ Psychiatry and Clinical Neurosciences(英文誌)の発行

第69巻 第4号-第12号および、第70巻 第1号-第3号までの12号分(1号あたり約5-10論文を掲載)を刊行予定。発行部数は、冊子体としては、各号約400部である。また、冊子体の発行と同時期に、全会員が電子版を閲覧することができる。非会員においても、発行1年後より、全論文の閲覧が可能である。

上記2誌の定期刊行物の他、以下の委員会より書籍の出版を予定している。

- 精神科薬物療法研修特別委員会「精神科薬物療法グッドプラクティス(仮)」
- 専門医制度 試験委員会「専門医認定試験 過去問題集(仮)」
- 精神療法委員会「臨床医のための精神科面接の基本」

III. 委員会活動事業 (定款第4条1号-6号に該当)

本学会基本理念のもと、精神保健・医療・福祉の質的向上に貢献することを委員会活動の基本に置き、学術研究のみならず臨床に関する現実的な課題についても取り組む。委員会活動は以下の6部門から構成され、本年度も幅広く活動を実施する。

2015年3月時点での各部門に属する委員会を下記する。(計48委員会)

■ 学術・教育部門

1. 精神科用語検討委員会/精神科病名検討連絡会
2. 精神神経学雑誌編集委員会
3. PCN 編集委員会
4. 精神医学奨励賞・精神医療奨励賞選考委員会

5. フォリア賞選考委員会
6. 学術総企画委員会
7. WPA Regional 準備委員会
8. 精神医療・精神医学情報センター運営委員会
9. ICD-11 委員会
10. 精神療法委員会
11. 小児精神医療委員会
12. 司法精神医学委員会
13. 精神医学研究推進委員会

■ 専門医制度部門

1. 専門医制度常任委員会
2. 専門医制度卒後研修委員会
3. 専門医制度試験委員会
4. 専門医制度資格・研修施設認定委員会
5. 専門医制度生涯教育委員会
6. 専門医制度整備委員会
7. サマースクール実行委員会
8. 精神科薬物療法研修特別委員会

■ 精神保健・医療・福祉部門

1. 精神医療・保健福祉システム委員会/精神疾患医療計画プロジェクト班
2. 精神保健福祉法特別委員会
3. 精神保健に関する委員会
4. 医療経済委員会
5. 精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会
6. 心理技術職の国家資格化に関する委員会
7. アンチスティグマ委員会
8. ECT・rTMS 等検討委員会
9. 多職種協働委員会
10. 性同一性障害に関する委員会
11. 薬事委員会/向精神薬の副作用診断・治療マニュアルタスクフォース班
12. 災害支援委員会/災害支援連絡会

■ 法・倫理部門

1. 法委員会
2. 医療倫理委員会
3. 倫理委員会

■ 広報・国際部門

1. 国際委員会
2. 広報委員会
3. 出版委員会

■ 庶務部門

1. 学会諸規則委員会
2. 情報システム委員会
3. 財務・特定資産検討委員会
4. 代議員総会議事運営委員会
5. 利益相反委員会
6. 情報管理委員会
7. 代議員選挙管理委員会
8. 男女共同参画推進委員会
9. 各種委員会活動評価委員会

IV. 精神医学・精神医療奨励事業及びフォリア賞事業（定款第4条6号に該当）

学会賞を複数設けており、表彰および表彰対象となった論文あるいは活動の講演の場を提供している。

■ 精神医学・医療奨励賞事業

A. 精神医学奨励賞

毎年、精神医学の発展のため顕著な業績を上げた若手（40歳以下）の研究者を表彰するもので、会員から推薦を受けた論文の筆頭著者を、選考委員長及び副委員長と毎年交代する理事（約10名）により構成される選考委員会の投票で原則1名を決定する。表彰することで、精神医学の学問的なレベルの向上を図る。

B. 精神医療奨励賞

日本各地で地道に行われている優れた精神医療活動の顕彰および精神医療の発展に寄与した団体・活動を毎年表彰する制度であり、他の地域での活動レベルを向上させる。会員から推薦を受けた候補団体・活動から原則1名（1団体）を選ぶ。

■ フォリア賞事業

フォリア賞は、毎年、当学会英文機関誌、Psychiatry and Clinical Neurosciences 誌（2014年は12号発刊、IF: 1.62）の中から優秀論文を表彰するもので、PCN編集委員長、副編集委員長と編集委員のうち15名程度で組織されたフォリア賞選考委員会で原則1論文を決定する。

V. 国際交流事業（定款第4条6号に該当）

国際交流活動を行うことにより、日本における活動について情報を提供すること、海外における精神医学・医療の発展の状況について情報を得ること、また、今後の本学会の国際交流の基盤となる人的なネットワークを構築することを主な目的とし、具体的には下記のような活動を行う。

- WPA とやり取りを行なう対応窓口を日本精神神経学会事務局内に開設する。
- WPA Regional Congress Osaka 2015 を平成 27 年 6 月 4 日から 6 月 6 日で開催する（本学術総会と同時開催）。
- 上記大会に海外若手精神科医を招聘する（学会賞である JSPN Fellowship Award の授与）。
- 国際学会にて口頭発表を行った日本の若手会員に、国際学会発表賞を授与する。
- 国際学会に会員を派遣する。
- WPA 関連学会に本学会の活動を紹介するポスター・パンフレットを送付する。

VI. 専門医認定事業（定款第4条3号に該当）

日本精神神経学会の専門医制度は、次のようなあり方を基本指針としている。

1. 精神科専門医制は卒後教育の目的に添い、その改善、推進に益するものであること
2. 精神科専門医制の導入によって精神医療の改善が促進されること
3. 研修内容は、
 - (1) 心の病に悩む人に対するすぐれた理解力と共感を持ち、人権尊重の基本理念とその具体的方法を身につける
 - (2) 地域社会に開かれた医療サービスの経験を積む
 - (3) チーム医療における協調性を重視し、必要に応じてリーダーシップをとりうる存在となる
 - (4) informed consent に基づく治療の具体的方法を身につける以上のような、基本的態度を身につけることを目指す内容とする

本年度もこの基本指針を念頭に置き、具体的には下記のような活動を行う予定である。

- 筆記試験・口答試問を実施し、新たに精神科専門医（以下、専門医）を認定する
- 専門医の資格更新審査を実施する
- 既存の専門医に対し、専門医資格継続のための研修会を認定し、研修の場を設ける
- 生涯学習活動の推進のため、生涯教育研修会を実施する
- 専門医を目指す研修医が研修を行う施設の認定及び認定施設に所属する指導医の委嘱、更新審査を行う
- 精神科専門医を目指す研修医を指導する指導医を対象に指導医講習会を年3回実施する
- 若い世代に精神科の素晴らしさ・面白みを知ってもらい、精神科専門医となる人の数を増加させる為、初期研修医等を対象としたサマースクールを実施する
- 精神科薬物療法研修を実施する。
- 日本専門医機構の整備指針等に基づき、専門医資格の取得・更新、専攻医の研修等についての具体的な検討を行なう。

VII. 情報に関する事業（定款第4条4号に該当）

精神医療、精神医学に関する情報は膨大であり、本学会は、その中から精神医療・精神医学に関する提言・意見、または診断や治療に関するガイドラインの策定などを適宜公表することが学術団体としての責務であると考えている。具体的には、本年度は以下のような活動を予定している。

■ 学会ホームページを通じた情報提供

学会ホームページでは、各委員会活動の研究結果等による情報を、誰でもアクセスが可能な場所に掲載しており、多くの人が閲覧できるようになっている。近年スマートフォンからの閲覧が増えたことから、学会ホームページをリニューアルし、スマートフォンでも閲覧しやすくなるよう改善をする。

本年度は各種雑誌の電子媒体での提供の拡充を進める。また、一般の方に向けたコンテンツについても、より幅広い情報を提供していく予定である。

■ 会員専用ページを通じた情報提供

会員情報を扱うことが可能な会員専用ページを設け、自身の会員情報管理や各種の会員向け情報が得られる場となっている。2013年度に開始した精神科専門医更新のためのeラーニングについて、本年度もさらにコンテンツを拡充できるよう進めている。

■ 精神医療・精神医学情報センターの設置

会員のみならず、広く国民との精神医療、精神医学に関する情報、知識の双方向性の伝達、交換にも資するために、その拠点として本学会に精神医療・精神医学情報センターを設置する。

2013年度よりWeb調査を導入しており、本年度も調査を実施する各種委員会などのサポートを行う。

以 上